

日本洞窟学会とは

洞窟は地下にあり、真っ暗で、普段の日常とはかけ離れた世界です。そんな特殊な環境であるがゆえに、洞窟を知るには多方面からの知識と知恵が必要です。

研究や探検の成果は学術誌「洞窟学雑誌」や機関紙「ケイビング・ジャーナル」、年1回の学会大会で発表されます。会員は日々の講習会や巡検を通して、それぞれの専門家の話を聞き、共に活動や研究をしています。そのため洞窟を軸に興味関心は無限に広がり、新しい発見や成果となっています。

本学会は、洞窟に関する事象を学際的(科学的、人文的、総合的)に究明し、洞窟学の進歩普及を図ることを目的としています。そのため、地質、地理、物理・化学、生物、古生物、人類・考古、火山洞窟、ケイビング・探検技術という8つの分野があり、それぞれの専門家が集まり、洞窟を研究・調査しています。学会員には理系や文系分野の人、さらに未知の洞窟を探検する技術や安全対策を研究する人、他にも洞窟そのものに興味を持った人もいます。つまり、会員には洞窟学の研究者と、洞窟探検を行いながら洞窟学に興味を持つアマチュア研究者、純粋に洞窟探検を楽しむケイパーなど多様な人がいて、研究者とアマチュアとの距離がとても近い学会でもあります。

堅穴での測量調査。洞窟の調査は堅穴で行われる場合もあります。このような時には、洞窟探検を行うアマチュアとの協力体制が不可欠です。



日本洞窟学会大会での公開講演会。学会大会は会員による発表や交流だけでなく、公開講演を行うことで洞窟や洞窟学会の活動について紹介します。

日本洞窟学会は、世界61カ国の洞窟学会・組織から構成される国際洞窟学連合(UIS: Union International Speleology)に日本の代表組織として加盟しているため、世界中にフィールドを広げることが可能です。

日本洞窟学会の活動は、研究や探検を追求するとともに、洞窟の環境保護・保全への提唱を行ったり、洞窟のある地域とイベントを行ったりするなどの社会貢献も行っています。

洞窟内での救助訓練。洞窟を安全に調査するため、洞窟学会では救助訓練を定期的に実施しています。



日本洞窟学会 office@speleology.co.jp
Speleological Society of Japan



国際洞窟・カルスト年2021

公式 HP (英語) <http://iyck2021.org/>
日本国内向け HP iyck.speleology.jp